

議事録（概要）

会議名	令和 6 年度 第 2 回芦屋町環境美化推進委員会					
会 場	芦屋町役場 4 階 第 43 会議室					
日 時	令和 7 年 3 月 31 日（月） 14：00～14：45					
委員の出欠	会長	福原 光次	出	委員	重岡 義成	欠
	副会長	山田 寛	出	委員	荻堂 幸男	欠
	副会長	森 真奈美	出	委員	六田 てるよ	出
	委員	田中 勉	欠	委員	藤谷 裕一	出
	委員	豊岡 正幸	出			
件名・議題	1. 事務局挨拶 事務局から挨拶を行った。 2. 議事 （1）飼い主のいない猫対策事業の方針について ①公益財団法人どうぶつ基金さくら猫事業の活用について 事務局から説明を行った。主な内容は以下のとおり。 令和 3 年度から実施しているさくら猫事業について、令和 7 年度から実施方法が変更となる旨の説明及びさくら猫事業に係る手術チケット交付等実施手順の説明。 ・意見等については、以下のとおり。 （委員）住民への周知はどのように行うのか。 （事務局）ホームページ及び広報での周知を予定している。 （委員）今までの事業実施においてどれくらいの野生の猫の増減があるのか。 （事務局）町内の猫の数については把握していないが、住民の方からの相談件数については、減ってきている。 （委員）個人で運搬することとなるがどこの病院に連れていくこととなるのか。 （事務局）大木町の病院に運搬していただくこととなる。 （委員）今までの事業の流れと異なる点はどこか。 （事務局）町へのチケット申請や報告書の提出、捕獲や病院への運搬が新たに追加された部分となる。 （委員）実施方法の変更によって、猫の数がどのように変化すると考えているか。また、猫の数が増えた場合はやむを得ないと考えているのか。					

	(事務局) 一時的な増加の可能性はあると考えている。今後の状況を注視していく。 (委員) 増加した場合の対策は何か検討しているのか。 (事務局) 今後の状況をみて検討していく。地域猫活動につなげていくという方法もある。TNR 事業と地域猫事業の必要性を見定めていきたい。 (委員) 大木町への運搬に係る費用補助を検討できないのか。 (事務局) 交通費の補助については、今後必要性について検討していく。 (委員) 提出された報告書の活用については何か検討しているのか。 (事務局) 報告書は行政からどうぶつ基金に対して報告するためのものであるが、捕獲場所や数の把握等の活用を検討していく。 (委員) ボランティアが実費で手術を行う場合の病院や費用についても周知をお願いしたい。 (事務局) TNR 活動等について広報に掲載する際に、より分かりやすく掲載するよう検討する。 ②犬のふん対策について 事務局から説明を行った。主な内容は以下のとおり。 花美坂区をモデル地区とし、放置されたふんに対し、イエローチョーク作戦を実施し、飼い主への啓発活動を行う。 ・意見等については、以下のとおり。 (委員) ふんは放置したままなのか。 (事務局) 啓発のため、チョークで囲んだふんは放置したままとする。 (委員) 土では使用できないのでは。 (事務局) 土ではなく、アスファルトでの使用を想定している。 アスファルト付近の土の場合は、アスファルトから矢印を引く形を考えている。 (委員) チョークで書くことについて何か問題があるか。 (事務局) 町道については問題なし。県道についても口頭で実施する旨を伝えている。 (委員) 花美坂区のみの実施なのか。 (事務局) 区長会で報告した際に、他にも実施したいという自治
--	--

	区があれば実施について検討する。 (委員) 公園にふんが多いので、土の部分にも黄色の輪っかをおくなど検討してほしい。 (委員) 輪っかななどを置くと子供や動物が動かす可能性もあるため、石灰などでも良いのではないか。 (事務局) 検討する。また、土の部分では酢などの忌避剤についても検討していく。 ③任期満了に伴う次年度委員の推薦について 事務局から説明を行った。主な内容は以下のとおり。 委員の推薦については、文書を後日送付させていただく。 ・委員からの意見はなし。
--	---